

編集後記

保健医療学雑誌 5 巻 1 号には、総説論文 2 編，原著論文 2 編，報告 3 編，資料 1 編が掲載されております。

西上論文では痛みについて臨床実践のための評価方法などを示されていると思います。野村論文では近年増加傾向になる糖尿病に対するリハビリテーションの臨床を示しており，明日からの臨床に役立つ内容だと思います。谷口論文では昨年，本誌 4 巻 1 号に掲載したウェアブル姿勢変化・歩行分析システムについて更なる分析をすすめる，従来の評価指標では捉えられない要素をこのシステムが評価できることを示唆しています。福井論文では，精神障がい者の離職率が優位に高いことを示し，現状の社会に問題を投げかけていると思います。巽論文は，大阪府柏原市の精神障害者における社会参加における調査をもとにどのような介入が必要なのかを示唆する報告です。川上論文は臨床で書字動作の主観的評価と客観的評価を比較検討し客観的評価の重要性を示す貴重な内容を報告しています。藤原論文は，リハビリテーションにおいて身体活動だけでなく栄養状態にまで視野を広げ包括的に対象者を評価することが効果的なリハビリテーションに実践するうえで重要となる貴重な報告がなされております。そして，今回から資料記事を掲載することとなり記念すべき第 1 回が掲載されました。今回は根拠に基づく臨床実践のための帰結評価指標の有効利用法と題し臨床実践において客観的な指標を確立することの重要性，そしてその開発手法について分かりやすく解説されていると思います。

2014 年になり早くも 3 ヶ月が経過しようとしています。いつの間にか桜が咲き始め，長かった寒い日々が終わりを告げております。保健医療の分野は，我が国において今後ますます需要が高まる分野でもあり，我々保健医療分野に携わるものとして使命感を感じます。今後も保健医療分野の発展のために，皆様からの多くの投稿をお待ちしております。

編集実務担当

椰野 浩司（関西福祉科学大学）